

データベース

大学図書館ではデータベースの検索は非常に重要な業務の一つです。

データベース整備の重要性

「コンピュータが図書館の閲覧室に出現して以来、ここ二十年ぐらいで急速に図書館サービスの中に入り込んで来たのがデータベース(DB)をはじめとする電子的資料です。DBは「コンピュータを使って検索できるように体系的に構成したデータの集まり」と定義されます。検索するためのツールという観点からすれば、辞書、事典、目録といった参考図書と同様ですが、そこに「コンピュータで検索する」という条件が加わることで、図書館サービスに大きなインパクトを与えました。

教員や学生のいちばん大切な仕事である論文・レポートの作成の際に最初に行うのが研究テーマに関する参考文献集めです。その際にDBを使わない状況は考えられない時代になりました。大学における教育・研究の支援を行う大学図書館にとってDBサービスをいかに充実させ、い

かに使いやすい環境を整えるかということとは最重要の使命と言えます。

このコンピュータを使った検索は、インターネットの普及以後、さらに大きく変貌を遂げつつあります。数年前までよく使われていたCD-ROMによる検索よりは、Webサイトを検索する形が主流になりつつあります。利用者にとっては使いやすいくなる形で進化してきていますが、それでもその変化に対応しきれない利用者やDBを初めて使う利用者(教員も含めて)がいることは確かです。マニュアルを整備し、利用指導を行うこともDBに関連する大切な仕事の一つです。

つまり、図書館員自身がDBを使いこなすことができ(内容まで理解する必要はありませんが)、さらに「こういう場合はこういうツールを使って探すと良いですよ」というアドバイスを打てるようになる必要があります。このツールには実は

DB以外の冊子体の参考図書も含まれます。DBを使わない方が効率的な場合もあります。

以上は、リファレンス担当職員に求められる能力ですが、基本的には図書館職員全員に求められるセンスだと私は思います。「資料を探すときに何を使うか?」「どつやったら安く楽に探せるか?」「こういうことを自問し、探し物が出てきた時、自ら試してみる、そういうことを日頃から心がけると良いでしょう。」

DBの分類

DBについては「利用目的」と「媒体」を掛け合わせることのできるかのバリエーションが出てきます。以下、従来の紙媒体の資料検索との比較を行いながら、DBサービスの概要を紹介しましょう。資料探しのための媒体は、大まかにいって「冊子体→CD-ROM→インターネット」という順で電子化されてきまし

データベース

検索可能なように一定のフォーマットに従って記録したデータの集合。DBと省略される場合もある。図書館で扱う場合、通常、書誌事項がデータの内容となる。通信ネットワークを介して検索するオンライン・データベースとCD-ROMなどのディスク上のデータを検索するオンディスク・データベースの2種類に分けられる。後者は単独のパソコン上で検索することになるのでスタンド・アローン型検索とも呼ばれる。同じデータベースが複数の検索システムから提供される場合もある。

ツール(ツール)

リファレンス業務や資料収集業務で使用する参考資料群。事典・辞典・年鑑・名簿・統計・白書・目録・書誌・索引等。

参考図書

辞典・事典・年鑑・名簿・白書等、主に調査研究(リファレンス)に用いられる資料群を指す。通常の図書のように通読するものではなく、必要事項を参照するためのもの。

た。一方、内容の方は、「外部DB・MARC→自館OPAC→電子ジャーナル」という順で電子化が進んできていました。現在の大学図書館はこれらのツールが重層的に重なり合った場所と言えます。

これを表にまとめたものが表1及び表2です。公共図書館のDB・サービスといえば自館で所蔵する図書・雑誌検索用のオンライン目録(OPAC)が中心ですが、大学図書館ではOPACに加えいろいろな外部DBを導入しているのが特徴です。この中で公共図書館にはほとんどなく大学図書館独自といってもよい電子情報が電子ジャーナルと二次情報文献DBです。(橋 洋平)

参考文献

DBや電子ジャーナルについては日々状況が変わっています。なかなかついていくのが難しい分野ですが、次のような専門雑誌を眺めるだけでも参考になるでしょう。

・情報の科学と技術
・情報管理

表1 利用目的別データベース分類

*「何を探すか?」「何で探すか?」によってデータベースを分類したもの(金沢大の例を中心に事例を挙げてあります)。

*比較のためにデータベース以外の探し方も載せてみました。

何を探すか?		インターネット	CD-ROM/DVD-ROM	冊子体/カート目録	力 技
		図書館に来なくても利用可能	基本的に来館して利用	図書館に向いて探す	もっとも素朴な探し方
図書 雑誌	自館の本・雑誌	各図書館のOPAC		蔵書目録(カード、冊子体)	書棚を眺めて探す。
	近隣図書館の本・雑誌	公共図書館のOPAC		各館の所蔵目録	直接図書館に向いて書棚を探す。
	国立国会図書館の本・雑誌	国立国会図書館OPAC		新収洋書総合目録	
	大学図書館の本・雑誌	Webcat 各大学図書館のOPAC		国書総目録	
	売っている本	TRC Books.or.jp オンライン書店・各出版社HP	Books in Print	これから出る本 日本書籍総目録 各出版社のPR誌	本屋に行って書棚を探す。
記事 雑誌論文・ 判例	雑誌記事・論文 *外国語論文については表2参照	雑誌記事索引DB ジャーナル・インデックス 医学中央雑誌	Social Science Index CA Collective Index	(例) 大宅壮一文庫 (例) 地理学文献目録	雑誌の目次を流し読みして探す。 持っている文献の引用文献から探す。
	雑誌の記事の全文	各種EJ(表3参照)		雑誌の所在場所を探し、そこから外向いて読む。	
	判例を探す	判例マスター	判例マスター	法学の専門誌などの索引を探して読む。	
新聞記事	記事の日付・見出し		CD毎日新聞	日付のあたりを付けて縮刷版の目次から探す。最近のものなら原紙を探す。	
	記事全文	聞蔵DNA for Libraries	戦前の読売新聞		
テキスト	文学作品を読む	青空文庫	電子ブック	図書館の文学のコーナーに行って本を読む。	
事項	いろいろな事項を探す	各種サーチエンジン		(例) 平凡社大百科事典	図書館員に尋ねる。答えは教えてくれないけれども、探し方を教えてくれます。
	何から探せばよいか分からない	各種ポータルサイト GeNii:NII学術ポータル			

MARC
機械可読目録(Machine Readable Catalog)の略称。従来の紙の目録をコンピュータで読み込み可能にしたもの。例えば、国立国会図書館作成のものはジャパンマークという。

OPAC
オーバックと読む。図書館の蔵書目録をデータベース化し、利用者がコンピュータを使って検索できるようにしたもの。Online Public Access Catalogの略称。以前は図書館の専門用語だったが、近年は一般的にも通用するようになってきている。

電子ジャーナル
デジタル化された学術雑誌。インターネットを利用してオンラインで読める。高額なものが多いので、図書館予算を圧迫しつつある。

二次情報文献DB
著者、書名、論題といった書誌的事項を検索可能にしたデータベース。これに対して雑誌記事・新聞記事などの全文を利用可能したものをフルテキスト・データベースと呼ぶ。